

ウミガラス保護増殖検討会 2021年3月1日（月）

令和2年度国指定天売島鳥獣保護区 海鳥被害モニタリング調査等業務

NPO法人EnVision環境保全事務所

要約

- 1) 赤岩（ウトウコロニー）にドブネズミ多数
- 2) ウトウ巣立ち雛の死体が多数
未成熟個体も多くの被害
- 3) ウミガラスのコロニーにもドブネズミ
- 4) 今年はとくに多い？
- 5) ドブネズミ以外も含めた被害対策が必要

業務概要

- 1) 自動撮影カメラによる生息状況調査
- 2) 踏査による食害状況のモニタリング調査
- 3) モニタリング手法の検討及び周知

自動撮影カメラの設置場所



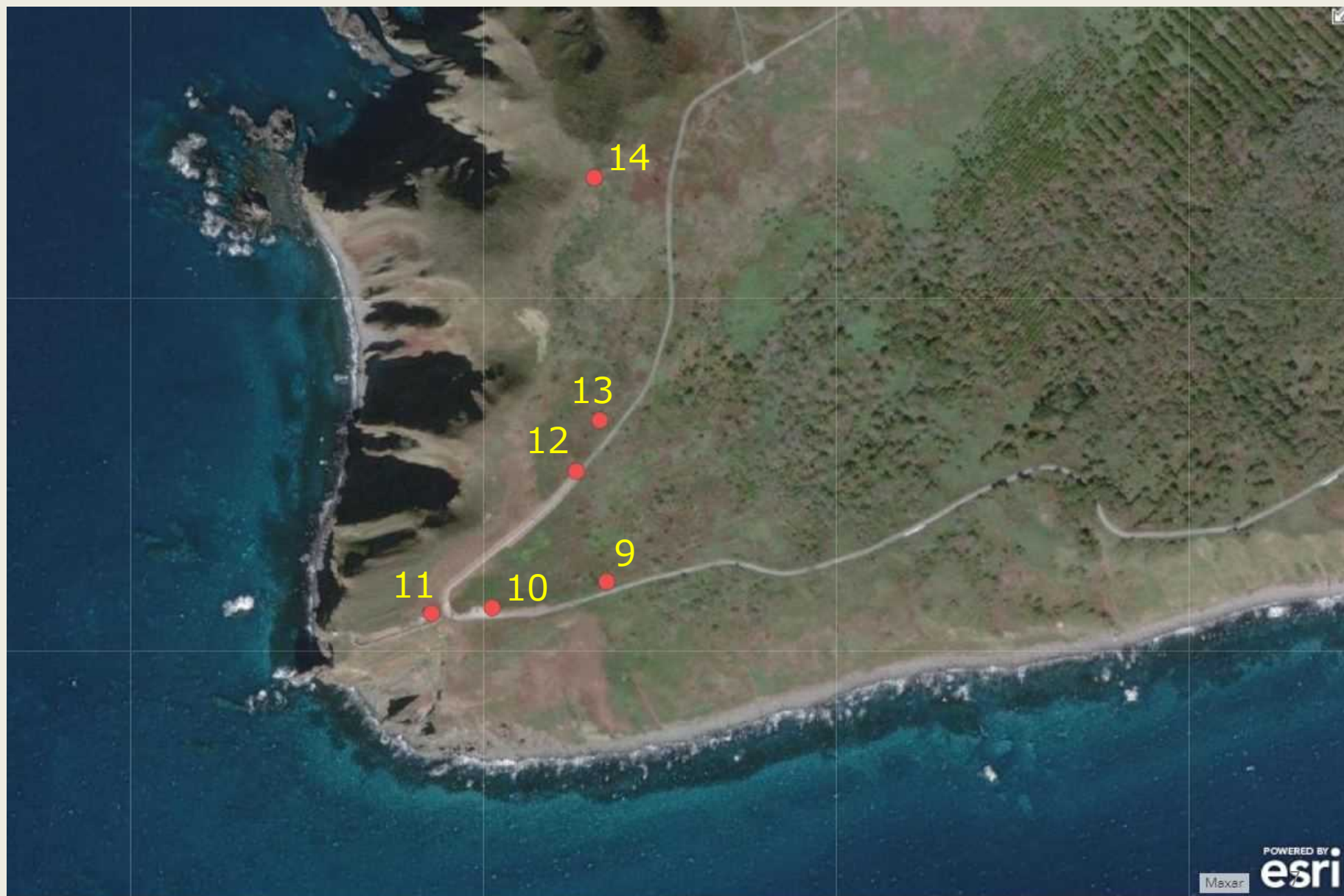
自動撮影カメラの設置場所（黒崎）



設置場所の環境（黒崎）



自動撮影カメラの設置場所（赤岩）



設置場所の環境（赤岩）



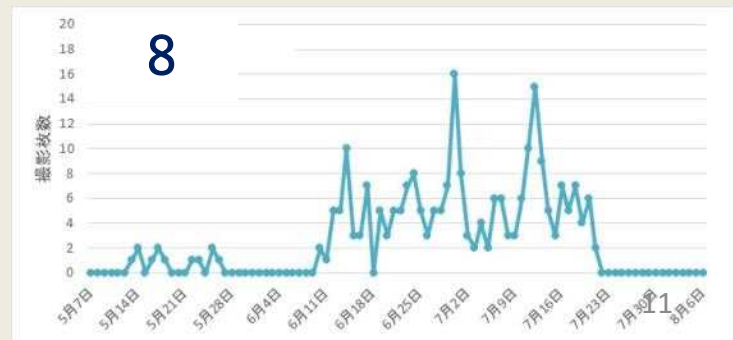
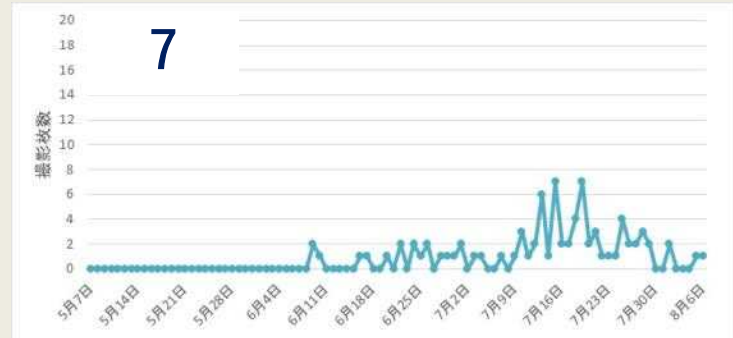
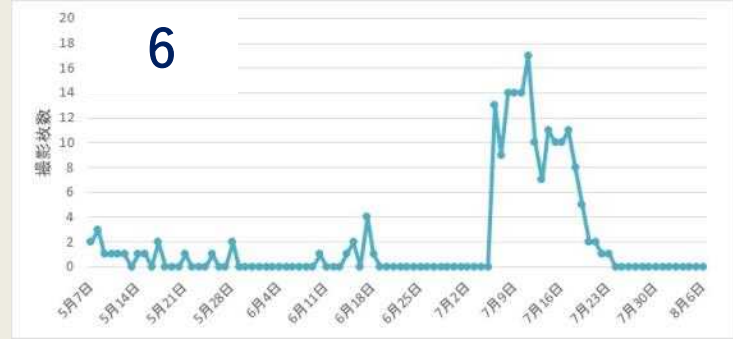
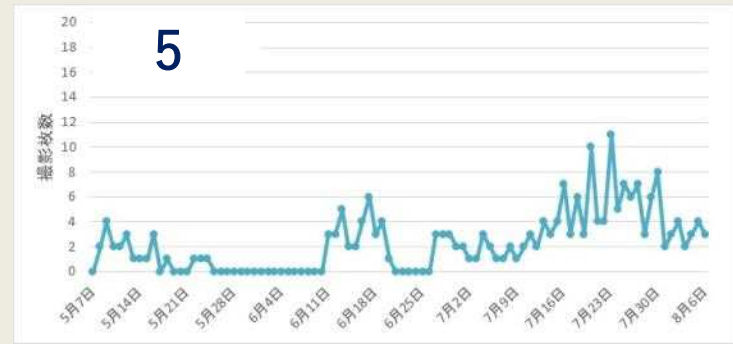
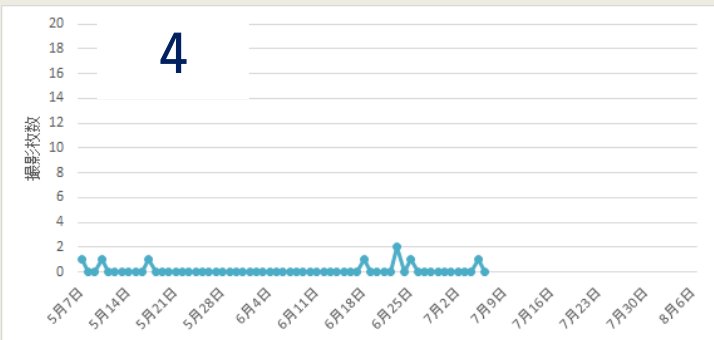
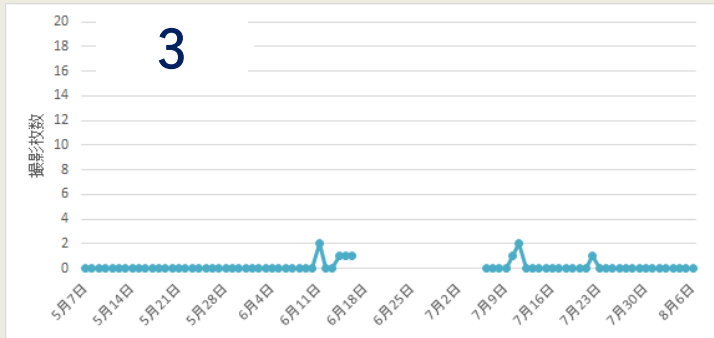
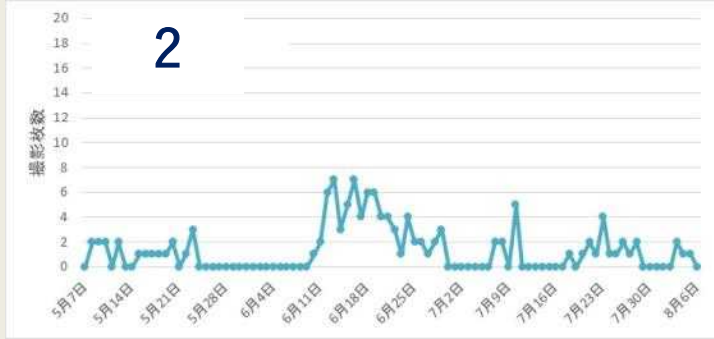
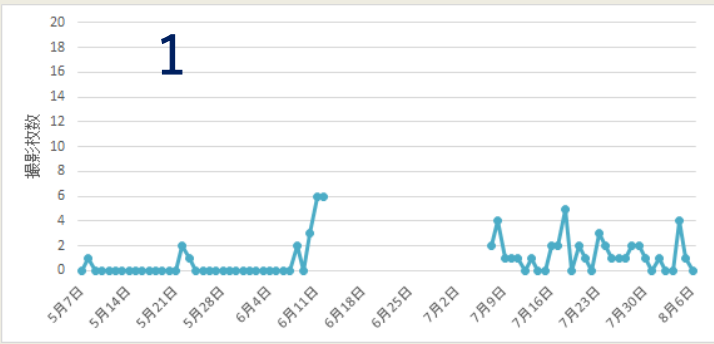
自動撮影カメラに写った画像



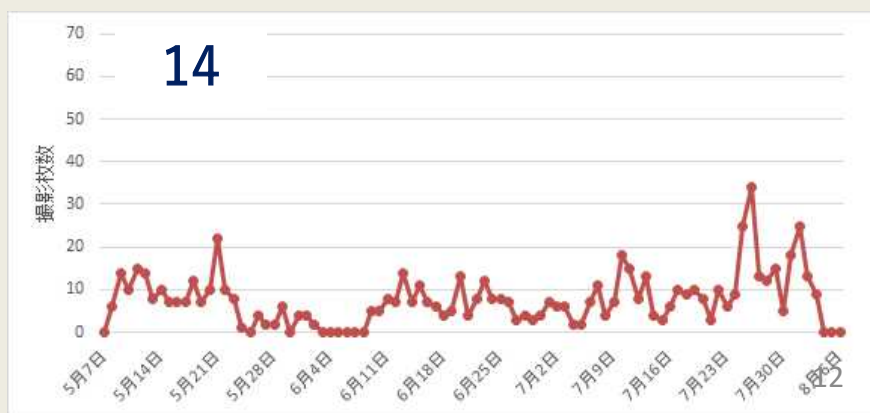
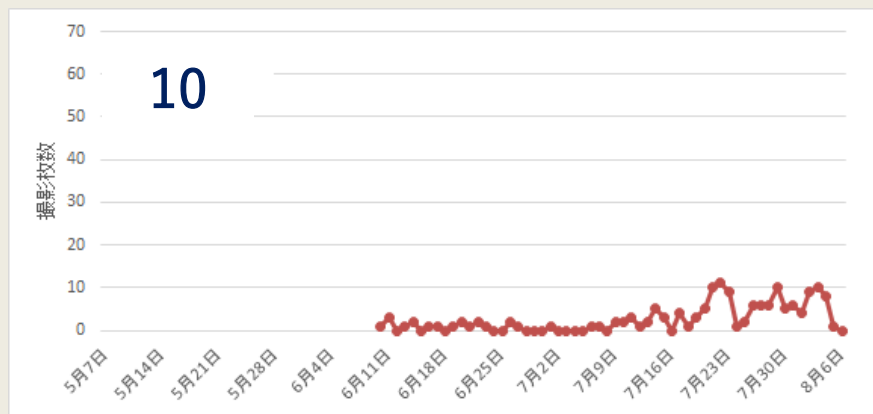
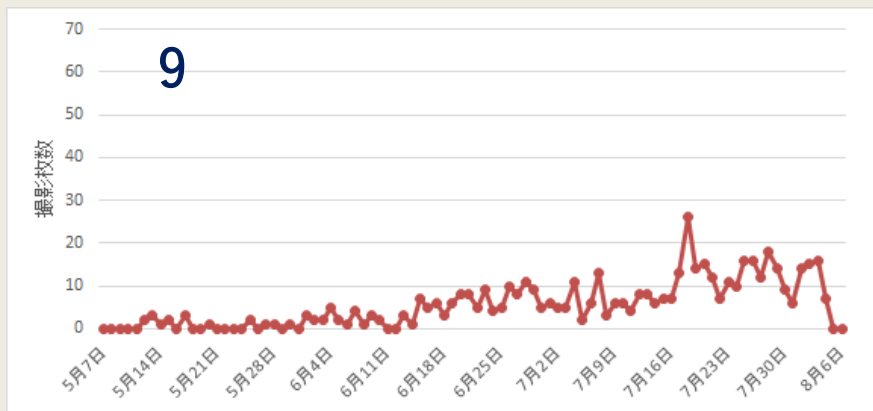
自動撮影カメラに写った画像



自動撮影カメラの結果（黒崎）



自動撮影カメラの結果 (赤岩)



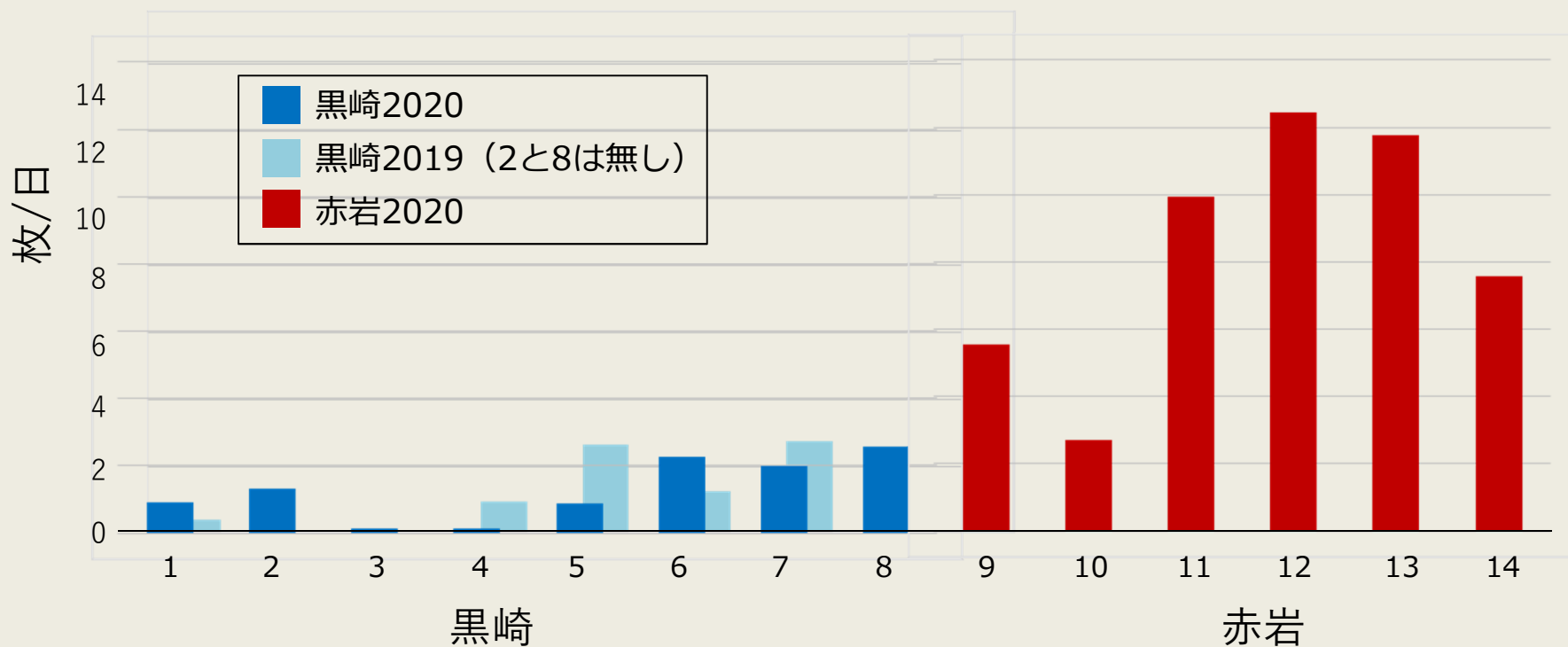
赤岩・古灯台（2020年6月）



道路上を歩きまわるドブネズミ（2020年6月）



ドブネズミの撮影頻度



自動撮影カメラの設置場所



ウミガラスの繁殖巣棚への侵入



食害状況のモニタリング調査

☑ ウトウ繁殖地およびウミネコ繁殖地の周辺に、約500mの踏査ルートを設定。道路上、および道路脇から5m程度を目安に、巣立ち雛および成鳥の死体を探す。
→ できる限り死体は除去する。

☑ 死体に食痕らしき形跡がないか調べる。形跡が認められた場合には、その形状からドブネズミによる食痕（門歯痕）であるか否かを評価する。

※ 可能な限り、発見した死体の日齢や栄養状態など、個体の生活史に関わる情報を収集する。

→ モニタリング手法の改訂・共有

踏査による食害状況のモニタリング調査



約500m、2020年7月6～8日に実施

ウトウの巣立ち雛の死体

全身あり



頭部なし



翼のみ



脚のみ (その他)



ドブネズミによるものと思われる痕跡

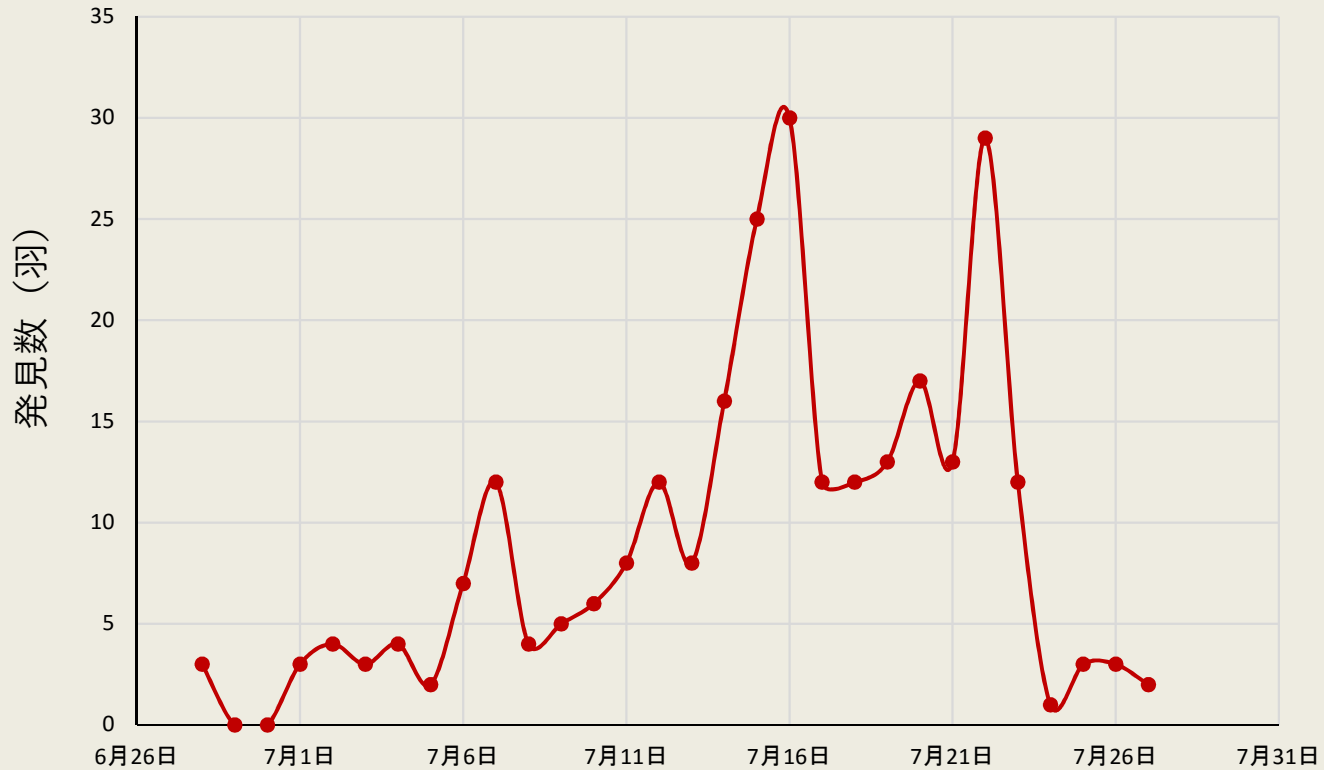


ウトウ巣立ち雛の死体の特徴



死体の確認状況

大門純平氏（北大・院・水産科学院）による調査



→ 計320体を収集

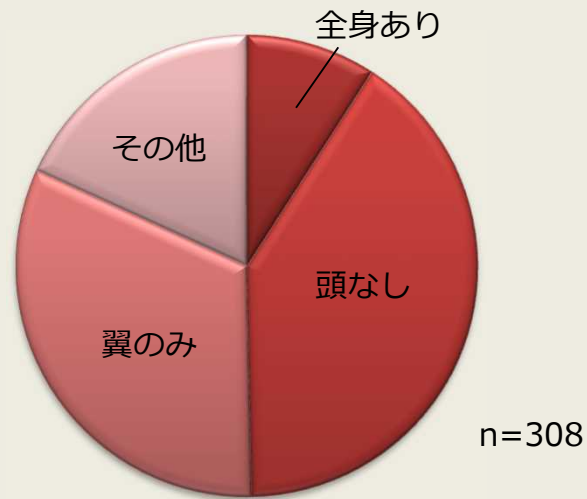
死体の確認

- 死体の残存状態
全身、頭無し、翼のみ、その他（脚など）
- 捕食部位
頭部、胸部、腹部、背部、無、不明
- 門歯痕
首、胸骨、その他、無、不明
- 翼の形成
0%、20%、40%、60%、80%、100%



死体の確認

- 死体の残存状態



- 門歯痕

37/308体 約12%

